

令和 6 年度 指定管理者点検結果

施 設 名	玉野市障害者地域活動支援センター「こころの里」
所 在 地	玉野市宇野 1 丁目 8 番 8 号
指 定 管 理 者	名 称 特定非営利活動法人 円い空 代表者 理事長 青井 一展 住 所 玉野市宇野 1 丁目 8 番 8 号
指 定 期 間	令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 1 1 年 3 月 3 1 日（5 年間）
担 当 部 課	健康福祉部 福祉政策課 電 話 0 8 6 3 - 3 2 - 5 5 5 6 E-mail fukushi@city.tamano.lg.jp

評 価 内 容 の 総 括	総 合 評 価
本施設のこれまでの実績を基盤として、利用者の個々のニーズへの対応に努め、きめ細やかな支援を強化していくことを主眼に事業を実施している。 指定管理、運営等の実施状況は良好であり、全体としても良好に指定管理を行っている。	A

■「総合評価」の評価基準

- S（優 良） 次の 3 項目の評価結果が全て A 以上であり、かつ S が 2 つ以上である。
- A（良 好） 次の 3 項目の評価結果が全て A 以上である。
- B（課題含） 次の 3 項目の評価結果に B が含まれている。
- C（要改善） 次の 3 項目の評価結果に C が含まれている。

① 業 務 の 実 施 状 況	評 価 結 果
【適切な施設管理の履行】 障害者地域活動支援センターとして、利用者・利用者家族・支援ボランティア・地域の関係機関の意見を踏まえながら、精神障害のある利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう必要な支援を継続している。 【法令等の遵守】 障害者総合支援法や岡山県が定める条例、玉野市障害者地域活動支援センター条例等の法令等を遵守し、適切な施設運営が実施できている。 【安全性の確保】 セキュリティ・消防業務等の専門的な業務は、委託業者を用いながら適切に実施されている。 【財産の適切な管理】 維持管理は適切に実施されている。 【利用状況】 利用契約者は契約状況の確認・見直しを行ったことから減少している。しかし、年間平均利用者数は引き続き高水準となっている。 【コスト削減への方策】 コスト削減については、支出の大半が人件費関連の支出で、日頃からコスト削減の努力がされており、これ以上のコスト削減は見込めない。	A
② サ ー ビ ス 向 上 へ の 取 り 組 み	評 価 結 果
利用者に対し個別の日常の相談援助業務を継続するとともに、施設の認知度を上げるための地域交流等イベント等を継続、サービスの維持向上に取り組んでいる。	A
③ 団 体 の 経 営 状 態 （ 経 営 の 健 全 性 ）	評 価 結 果
相談支援事業対応による計画相談給付費収益の維持等により、経営努力を行っており、黒字経営を継続している。	A

■「評価結果」の評価基準

- S（優 良） 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である。
- A（良 好） 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である。
- B（課題含） 協定書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- C（要改善） 協定書等の基準が遵守されておらず、改善が必要な内容である。

I 業務の実施状況に関する事項

1 管理体制の状況

(1) 指定管理業務の実施体制図（外部委託先を含む）

別紙「組織体制図」のとおり

(2) 人員配置状況

施設長 1名（相談支援専門員 兼務）

精神保健福祉士 3名（常勤専従1名、常勤兼務1名、非常勤専従1名）

支援員 1名（非常勤専従）

※常勤換算2.7人

（指定特定相談支援事業 常勤専従 主任相談支援専門員1名）

2 施設・設備の維持管理業務の実施状況

・建物・設備の保守管理業務

建物・設備の老朽化が進んでおり、随時所管課と協議しながら補修等を依頼している。耐用年数を超えている空調設備（業務規格）については、現状稼働で来ているため、来年度以降の修繕等を検討している。

消防設備・電気設備の保守点検は外部に委託して行っている（岡山県備前県民局建設事務所・宇野港管理事務所と合同）。

・清掃業務（昨年度までと同様の対応）

日頃の簡易な清掃は職員にて行っている。

屋外の植栽の手入れなどは年2回、利用者有志の協力を得ながら行っている。

建物の共用部にあたる1階トイレの清掃については、業務委託にて行っている。また、年1回程度外部業者に委託し、床のワックスがけ等を行っている。

・警備業務（昨年度までと同様の対応）

警備・保守管理は外部に委託して行っている（岡山県備前県民局建設事務所・宇野港管理事務所と合同）。

・駐車場管理業務 等（昨年度までと同様の対応）

岡山県備前県民局とも協議の上、利用者用駐車スペースを4台分確保している。

公用車及び職員通勤車両は行政財産使用許可を得て敷地内の駐車場を借用している。

3 利用等の許可の状況

原則として玉野市在住（または玉野市内に住民票を置く）で、精神科・心療内科等専門医に定期通院する方を利用対象とし、利用契約時に同意の得られた利用者からは、主治医より「情報提供書」を得ている。

利用者状況は、別表「令和6年度 利用契約者状況」参照のこと。

II 施設の利用状況に関する事項

1 施設・設備の利用状況

- ・利用許可の総件数、各施設・設備ごとの利用許可（不許可）件数
- ・利用者名、利用日時、利用目的、参加者数 等

別表1「令和6年度 利用契約者状況」のとおり。

III 自主企画事業の実施に関する事項（協定書に追加した事項等）

1 イベント名、内容、参加者数、収支状況 等

別表1「令和6年度 利用契約者状況」、別表2「利用者数（月別利用実数の年間平均値）年次推移」および各「地域交流活動推進事業実施報告書」のとおり。

IV 料金収入の実績及び管理経費等の収支状況等

1 利用料金の収入及び減免の状況

（1）利用料金の収入総額、各施設、設備ごとの収入額 等 該当なし。

（2）減免の総額、各施設・設備ごとの内訳、減免理由 等 該当なし。

2 管理に係る収支の状況

(必要に応じ詳細な収支報告書を作成すること)

(1) 収入

項 目	金 額	備 考 (内訳など)
利 用 料 収 入	0	
指定管理料収入	17,900,000	
そ の 他 収 入	6,400,833	計画相談給付費、障害支援区分認定調査委託料、物価高騰支援金、精神保健福祉実習委託料、他
収 入 合 計	24,300,833	

(2) 支出

項 目	金 額	備 考 (内訳など)
人 件 費	19,823,779	従業員給与、法定福利費及び福利厚生費
光 熱 水 費	425,430	
委 託 料	553,815	保安委託料、電気設備・消防設備保守委託料、トイレ清掃委託料、事業所一般廃棄物収集・処分費、パソコン・通信保守委託費
事 務 費	201,710	自動車保険、車両燃料費
修 繕 料	0	
保 険 料	119,592	しせつの損害保険
租 税 公 課 (事業所税を除く)	14,011	印紙代、登記事項証明書発行手数料、他
リース料	844,180	公用車、電話機、複合機、パソコンリース料
そ の 他	1,547,098	外部講師等報償費、印刷製本費、通信費、備品消耗品費、支払手数料、新聞図書費、他
事業所税相当額	0	
消費税相当額	0	
支出合計	23,529,615	

V 自己点検結果

自己点検の方法、結果、改善方法 等

随時各職員により観察を行い、不具合が生じた際などは所管課と協議の上、軽微なものについては職員にて修繕等を行っている。業者に修理を依頼する場合や支援ボランティアの協力を得ることもある。

今年度は、備品の大きな故障等はなく、修繕の機会は無かった。

一方、公用車2台はいずれも耐用年数を過ぎていたため、1台については令和6年3月よりリース契約の車両に切換を行った。残る1台についても、来年度以降の対応を検討している。

また、施設内7台のエアコンのうち4台が耐用年数を過ぎており、来年度以降は何らかの対応を必要としている。

VI 経費節減・サービス向上に関する取組み

引き続き、各職員の省エネ意識を維持し、節電・節水に努めるとともに、利用者の皆さんにも省エネに対する意識をもって頂けるよう、各職員で働きかけを継続した。結果、水道光熱費の総額は昨年度に比べ、一定程度抑制することができた。

地域交流普及啓発事業について、一昨年度から開催方式を一部変更して再開している。通常のセンター内活動については、引き続き、感染拡大防止の観点から、換気を行う、小グループに分かれて密集を避ける、食事中の会話は避ける等、リスクを最小限とする対策を講じた上で継続している。「餅つき交流会」において利用者の餅の持ち帰りを慣習化していたが、食品衛生上の観点からも来年度は廃止し、日用品や日持ちのする菓子等を持ち帰っていただく方向で検討している。

今年度も、通所利用される方の滞在時間は短時間にとどまる傾向が続いている。通所利用件数は減少傾向にあった。電話相談は引き続き高い件数で推移している。

相談支援事業においては、当センターで対応できる上限にほぼ達している状況が続いており、今年度から相談支援専門員を増員（1名を常勤専従に移行、兼務者を1名追加）して対応した。地域の他の相談支援事業所とも連携を深めながら、圏域としての対応の在り方を引き続き検討していきたい。

コロナ禍での中断を契機に、「家族の集い」と「ボランティア交流研修会」を統合し、利用者も参加できる形式として、昨年度に引き続き「合同学習会」を実施した。参加数は限定的であったが、参加者からは好評であり、市の「まちづくり出前講座」や包括支援センターの「いきいきお役立ち講座」を活用するなどして外部講師を招聘し、来年度以降も継続する予定である。

利用者の当事者活動については、月1回の定例会への参加者は限られており、会務運営に課題はあるが、年数回の親睦・交流の場には一定の参加者数があり、活気が戻りつつある。

VII その他

新規利用者は昨年度より6名減の10名だった。新規契約者の内訳は、「地域活動支援センターⅠ型」のみの契約者は昨年度より2名減の2名であった。相談支援事業新規契約者は昨年度12名に対し、今年度は8名だった。数字には表れないが、新規の依頼に対して相談には応じたが本人の自立度等を勘案してセルフプランを促した例や、他の事業所へ対応を依頼した例もあった。

また、実質的に相談支援事業の利用が終了していたり、市外への転出が確認できた33名（男性21名、女性12名）について、3月末で契約終了とした。

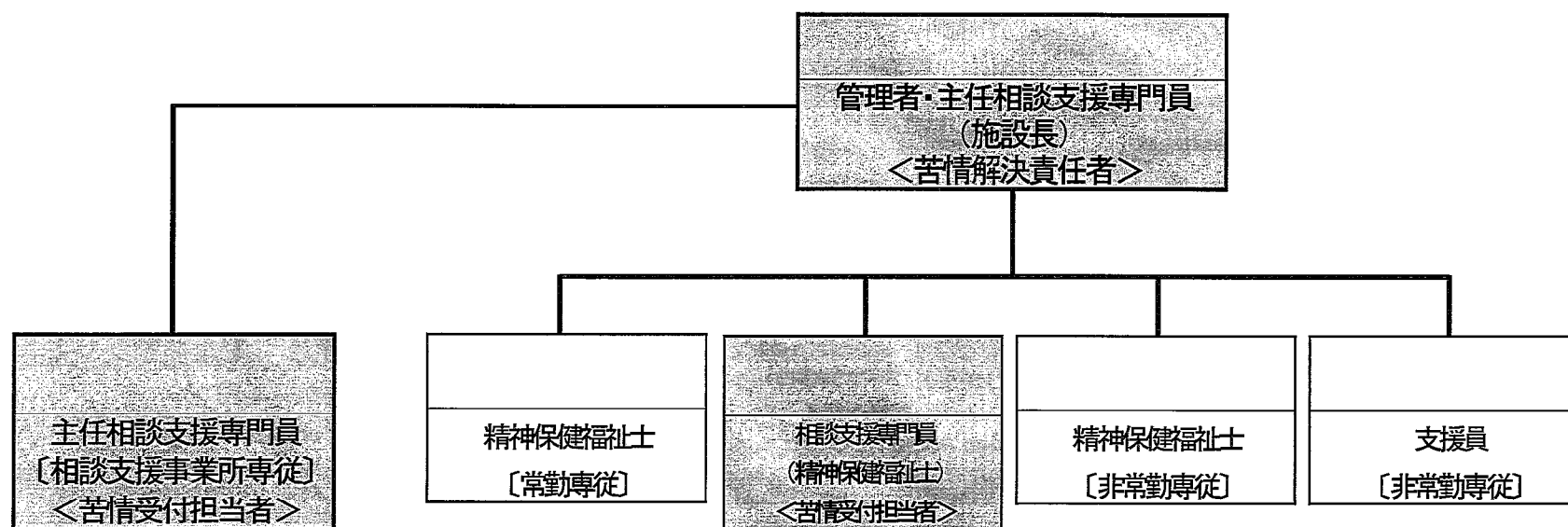
コロナ禍もあり、この数年間で、定例の行事・活動への参加者が減少傾向にあり、3つの行事の活動を終了または休止している（「絵手紙講座」、「リフレッシュ教室」、「シフォンケーキづくり」）。平日の通所利用者が減少傾向にある一方、土曜日開催の活動については、一定の参加者があることから、一部の行事は開催日を土曜日に移行して継続している。

また、今年度途中から、月1回「ゆったりサロン」と銘打ち、利用者が自由に参加できる茶話会の場を設けている。職員が側面的にリードすることで利用者同士が安心して交流できる場を設けるとともに、当センターに対する満足度聴取やセンター運営について利用者の意見を聴く場として活用している。比較的参加者の多い昼食を提供する機会（「カレーの日」、「ランチの日」）にあわせて行うことで、8～11名の参加を得ている。

近年、本地域においても障害福祉サービスを中心に日中活動の場が多様となり、当事者に多くの選択肢が提供できる体制になっていることは歓迎すべきことと思われる。一方で、障害福祉サービスの枠組みに適応しにくい当事者も散見され、純粹に「居場所」として運営される事業は限定的とも見受けられる面とも併せ、今後とも多様な利用者を受け入れることのできる場として、地域の実情に合った運営を目指していきたい。

地域活動支援センター こころの里

組織体制図 (地域活動支援センターⅠ型・指定特定相談支援事業所)



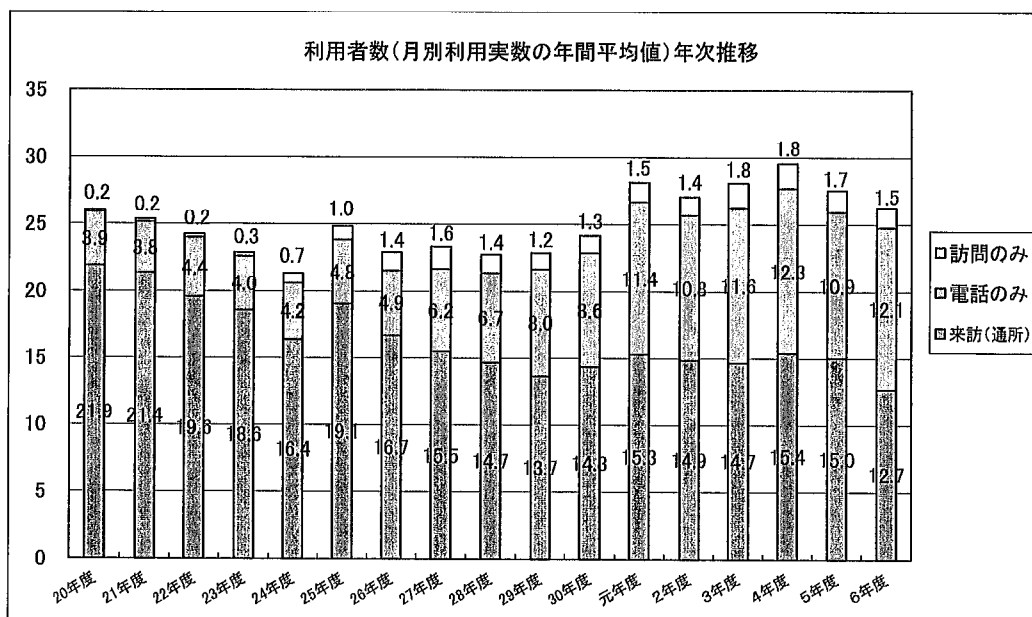
※ 網掛け部分を指定相談支援事業所職員とし、()内の職種を兼務する。

別表1 利用契約者状況 年次推移(月別利用実数の年間平均値)

(令和7年3月31日 現在)

※ 集計に未契約者は含まず

	来訪(通所)	電話のみ	訪問のみ	合計
20年度	21.9	3.9	0.2	26.1
21年度	21.4	3.8	0.2	25.4
22年度	19.6	4.4	0.2	24.3
23年度	18.6	4.0	0.3	22.9
24年度	16.4	4.2	0.7	21.4
25年度	19.1	4.8	1.0	24.8
26年度	16.7	4.9	1.4	22.9
27年度	15.5	6.2	1.6	23.3
28年度	14.7	6.7	1.4	22.8
29年度	13.7	8.0	1.2	22.9
30年度	14.3	8.6	1.3	24.2
元年度	15.3	11.4	1.5	28.1
2年度	14.9	10.8	1.4	27.1
3年度	14.7	11.6	1.8	28.1
4年度	15.4	12.3	1.8	29.6
5年度	15.0	10.9	1.7	27.6
6年度	12.7	12.1	1.5	26.3



令和6年度 地域活動支援センター事業実績

実施主体		玉野市				
事業を実施する施設名及び所在地		地域活動支援センター　こころの里 玉野市宇野1丁目8番8号				
延利用者数		5，988名　（利用契約者数345名）				
職員配置	職　種	定員	勤務形態	職　種	定員	勤務形態
	施設長	1名	嘱託	精神保健福祉士	3名	常　勤2名 非常勤1名
				支援員	1名	非常勤
	主任相談支援専門員	1名	常勤	※ 指定特定相談支援事業専従		
事業内容	憩いの場に関する支援（サロン利用）				440名	
	生活支援事業		延利用者数		403名	
	・ 食事に関する支援				184名	
	・ 作品づくり（趣味）に関する支援				48名	
	・ 体力・仲間づくり（スポーツ）に関する支援				45名	
	・ 余暇に関する支援				89名	
	・ 生産活動（ケーキ作り）に関する支援				37名	
生活相談事業		延相談件数		6，969件		
・ 面接相談		930件				
・ 電話相談		5，541件（夜間電話含む）				
・ 訪問相談		498件				
地域交流活動推進事業		実施回数		4回		
・ サロン・コンサート		38名				
・ こころの里祭り		65名				
・ 餅つき交流会		39名				
・ 玉野こころの講演会		84名				
		延利用者数（参加者総数）		；　226名		
その他地域生活に関する事業						
・ 当事者活動支援		70名				
その他地域交流等に関する事業		実施回数		1回		
・ 合同学習会（防災講座）		9名				

令和6年度 利用契約者状況

(令和7年3月31日 現在)

表1. 開所日数・利用契約者・相談事業利用状況

	開所 日 数	契約利 用者数	新規契約		契約解除者		利用者数(実人数)			一人 平均 (日)	利用者数(のべ)			一日 平均 (人)	相談状況										面接 相談	電話 相談	同行・ 訪問	サロン	夜間 電話 件数	夜間電話件数			家族	見学・ 来訪者
			男	女	男	女	総数	男	女		総数	男	女		相談状況																			
															総数	人間関係	生活関連	仕事関連	病気・薬	施設利用	福祉制度等	その他												
4月	21	380	1	2	3	0	103	54	49	5.2	536	353	183	25.5	573	7	295	7	12	110	141	1	81	438	54	23	1	0	1	0	15	25		
5月	19	380	0	0	0	0	104	50	54	4.6	480	290	190	25.3	615	2	329	7	10	141	124	2	74	492	49	16	0	0	0	0	17	33		
6月	21	381	1	0	0	0	98	56	42	5.3	520	353	167	24.8	672	17	359	13	17	160	105	1	84	547	41	48	0	0	0	0	19	65		
7月	21	381	0	1	0	1	90	49	41	6.0	541	360	181	25.8	626	17	300	19	10	166	114	0	88	502	36	61	0	0	0	0	14	31		
8月	22	380	1	0	2	0	105	58	47	5.1	540	335	205	24.5	602	4	323	22	10	146	96	1	76	482	44	60	1	1	0	0	13	21		
9月	19	380	0	0	0	0	102	68	34	4.8	486	339	147	25.6	547	8	275	19	12	140	91	2	94	416	37	51	0	0	0	0	13	27		
10月	21	381	1	0	0	0	96	54	42	5.4	521	342	179	24.8	544	4	256	10	13	150	110	1	73	438	33	42	0	0	0	0	26	68		
11月	19	378	0	0	2	1	106	59	47	4.8	511	355	156	26.9	656	3	328	16	12	176	120	1	94	518	44	42	0	0	0	0	20	20		
12月	20	378	1	0	1	0	101	63	38	4.6	463	320	143	23.2	533	6	277	25	4	132	89	0	53	435	45	39	0	0	0	0	17	34		
1月	17	377	0	0	0	0	94	53	41	4.8	452	302	150	26.6	540	9	275	15	14	148	78	1	67	443	30	16	2	2	0	0	16	22		
2月	17	376	0	0	1	0	99	60	39	4.3	423	277	146	24.9	469	1	229	22	6	120	91	0	58	371	40	14	0	0	0	0	13	27		
3月	19	345	2	0	21	12	102	61	41	5.0	515	339	176	27.1	588	9	324	6	9	146	92	2	88	455	45	28	0	0	0	0	27	23		
合計	236	345	7	3	30	15	-	-	-	-	5,988	3,965	2,023	25.4	6,965	87	3,570	181	129	1,735	1,251	12	930	5,537	498	440	4	3	1	0	210	396		
平均	19.7	-	-	-	-	-	100.0	57.1	42.9	5.0	499.0	330.4	168.6	25.4	580.4	7.3	297.5	15.1	10.8	144.6	104.3	1.0	77.5	461.4	41.5	36.7	0.3	0.3	0.1	0.0	17.5	33.0		

表2-1. 生活支援事業参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
料理教室	-	6	-	8	-	5	-	8	-	5	-	7	39	6.5
手芸教室	2	-	4	-	3	-	-	-	3	-	3	-	15	3.0
カレーの日	16	-	12	-	-	-	-	-	13	-	12	-	53	13.3
鍋の日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
スポーツの日(大会含む)	3	2	4	-	2	3	2	-	-	-	-	2	18	2.6
ソフトバレーボール	3	1	2	2	2	4	2	4	3	1	1	2	27	2.3
のど自慢会	8	7	7	4	4	7	4	5	5	2	4	4	61	5.1
シフォンケーキ作り	2	2	3	3	2	2	4	4	3	2	1	4	32	2.7
シフォンケーキ製法会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	5.0
パソコン教室	2	2	3	1	4	2	3	3	5	3	2	3	33	2.8
ランチの日	-	13	-	16	-	13	-	8	-	9	-	11	70	11.7
ゆったりサロン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	11	9	28	9.3
ぜんざいの日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	11	11.0
きなこもちの日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	11	11.0
合計	36	33	35	34	17	36	15	32	32	41	45	47	403	86.1

表2-2. 当事者活動参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
めばるの会	3	3	7	12	3	4	8	11	11	3	2	3	70	5.8
話茶話茶の会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.0
合計	3	3	7	12	3	4	8	11	11	3	2	3	70	5.8

表2-3. ボランティアよりの支援状況(参加ボランティア数:延べ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
カレーの日	3	-	5	-	-	-	-	-	3	-	3	-	14	3.5
料理教室	-	2	-	2	-	2	-	2	-	2	-	2	12	2.0
手芸教室	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	1	-	5	1.0
ソフトバレー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
シフォンケーキ作り	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
ランチの日	-	5	-	2	-	5	-	2	-	5	-	2	21	3.5
その他	-	-	-	-	-	-	15	-	15	-	-	-	30	15.0
合計	4	7	6	4	1	7	15	4	19	7	4	4	82	6.8

※地域交流事業含む

表3. 世帯構成(人)

	家族と同居	一人暮らし	その他	合計
男性	125	45	20	190
女性	116	24	15	155
合計	241	69	35	345
%	69.9	20.0	10.1	100.0

表4-1. 年代構成(人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	合計
男性	2	11	27	42	48	38	20	2	0	190
女性	1	10	21	24	56	24	15	3	1	155
合計	3	21	48	66	104	62	35	5	1	345
%	0.9	6.1	13.9	19.1	30.1	18.0	10.1	1.4	0.3	100.0

表4-2. 利用者平均年齢(歳)

	平均年齢	前年度比
男性	51.49	+ 0.81
女性	52.73	+ 1.03
全体	52.05	+ 0.92

地域交流活動推進事業実施報告書

【 サロン・コンサート 】

開催日時	令和6年 6月 15日（土曜日） 13時 ～ 14時30分
開催場所	サロン・調理場
参加人数	利用者：11名 一般：15名 奏者：6名（＋同伴者：2名） 職員：4名 合計：38名
内 容	《 目 的 》 日頃、あまり体験できない生の演奏をとおして癒しの場を提供するとともに、演奏後の交流会により精神障害者（利用者）と地域住民が触れ合う機会を設けることで、お互いの理解を深めることを目的に開催した。また、当センターを広く地域住民にPRする機会として活用することも併せて目的とした。 《 内 容 》 山陽リコーダーアンサンブルの皆様をお招きし、「あなたに届けたい木のかおり、風のうた」と題して1時間程度の演奏会を開催した。演奏後は参加者から質問や疑問を募り、演奏者の方にお答えいただきながら交流できるトークタイムを30分程度設定。参加者より300円の会費を徴収し、お土産としてこちらの里利用者が焼いたシフォンケーキを持って帰っていただいた。 《 反省及び課題など 》 ・感染症拡大防止の観点から来場者を30名（1ヶ月前より予約開始・先着順）に限定し、飲食を伴わないスタイルで開催。予約は定員に達したが、当日キャンセルなどもあり最終的な来場者数は26名であった。 ・演奏者が6名かつ多くの種類の楽器を持参されていたため、客席の最前列の位置を少し下げた。席の間隔を考えると座席の数は30席が妥当であると思われる。 ・コンサートの曲目は、クラシックや歌謡曲など馴染みのある曲を選んでくださったため、皆さん楽しんで聴かれている様子であった。トークタイムでは素朴な質問やコンサートの感想が挙がり、和やかな雰囲気となった。

地域交流活動推進事業実施報告

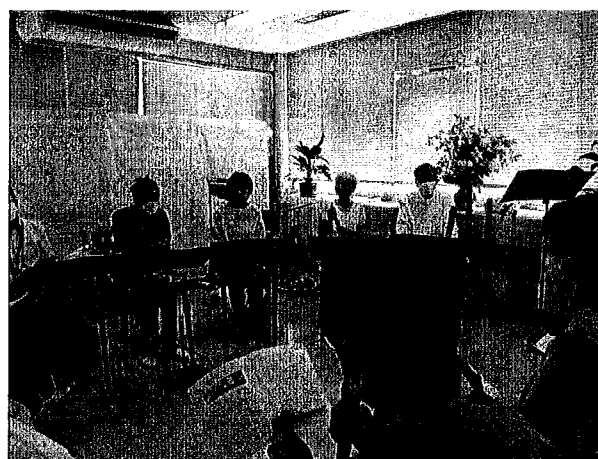
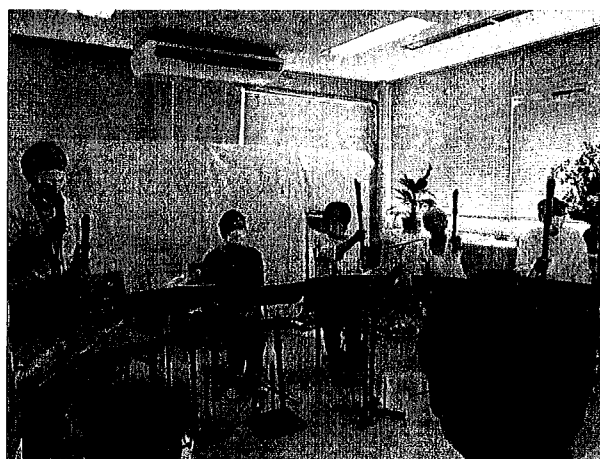
【 サロン・コンサート 】



「あなたに届けたい 木のかおり、風のうた」



客席の様子



トークタイム

地域交流活動推進事業実施報告書

【 こころの里まつり 】

開催日時	令和 6 年 10 月 5 日 (土曜日) 11 時 30 分 ～ 14 時 00 分
開催場所	駐車場
参加人数	利用者：27 名 運営ボランティア：15 名 (個人登録ボランティア、社協、岡山大学) 出演ボランティア：11 名 (玉野フォークダンスクラブ) 出店協力事業所：2 名 (フクちゃんのパン屋さん) その他：4 名 職員：6 名 / 合計：65 名
内 容	《 目 的 》 地域との交流と、こころの里の活動の認知を目的に、利用者・家族・各種ボランティア団体・地域住民の方と共に、毎年の恒例行事として祭りを開催している。 当日は参加者が、模擬店・カラオケ・ゲーム・フォークダンスなどを通じて交流し、お互いの理解を深め合う。利用者のステージ出演を募集し、利用者が積極的に行動し、達成感を味わえる場となることを期待する。 学生のボランティアサークル等に協力を呼び掛け、若い方とも交流できる場にしたい。 《 内 容 》 好天に恵まれ、開放的な屋外であたたかい雰囲気祭りとなった。今年も新型コロナウイルス感染症に配慮し、原則マスクを着用とした。 日頃から支援いただいているボランティアの協力による各種模擬店(カレー・うどん・おでん・かき氷・ジュース・ネギ焼)はすべて完売。地域の事業所からの応援出店もあり、来場者には食事や買い物を楽しんでもらった。 ステージでは、のど自慢大会(カラオケ)で事前に申し込みをした利用者8名が歌を披露。会場は温かい手拍子に包まれた。 ビンゴゲームは来場者全員参加で盛り上がった。今年のビンゴの景品は防災を意識したグッズを詰めた手作りリュックにした。 フォークダンスは、今年も玉野フォークダンスクラブの方が皆で楽しめる踊りを選んでくださり、華やかなフィナーレを飾ることができた。 《 反省及び課題など 》 ・今年も安全に開催することができて良かった。 ・テントが風に弱いので、支柱に付けるウエイトを購入し設置した。 ・前日準備から当日の片付けまで多くのボランティアに協力いただいた。 ・利用者出演のコーナーは残念ながら今年は希望者がいなかった。 ・岡山大学のボランティアサークルに依頼したところ1名の参加があり、準備・片付け等若者のパワーに助けられた。若い方にこころの里の活動を知っていただけるように、毎年交流を続けていきたい。

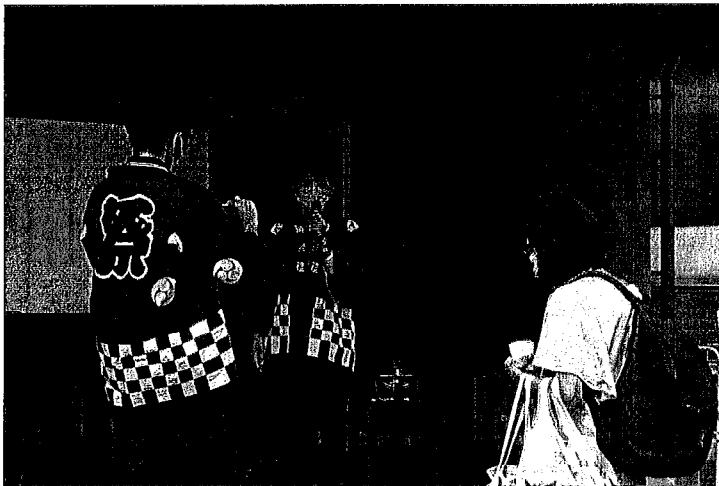
地域交流活動事業実施報告
【こころの里まつり】



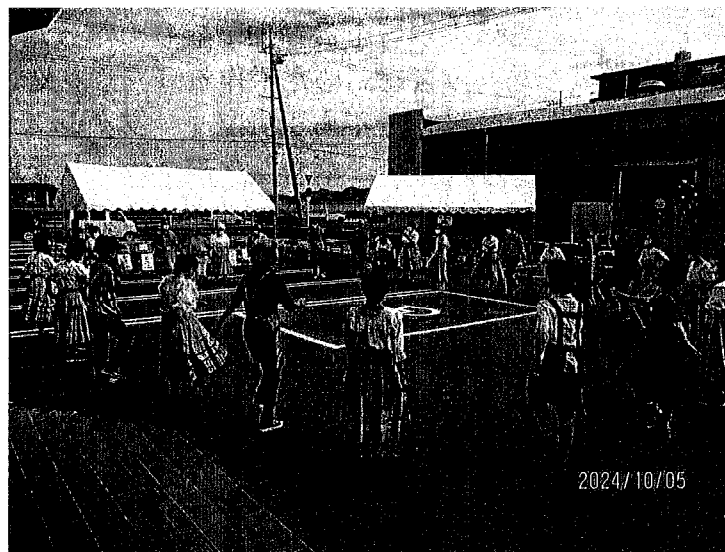
ボランティアによる屋台



利用者によるのど自慢大会



全員参加で BINGO 大会

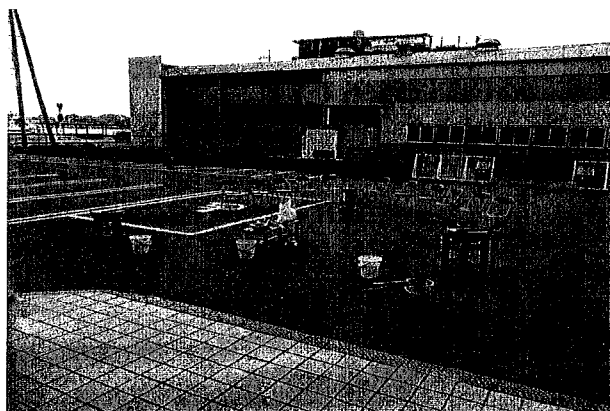


フォークダンス
(玉野フォークダンスクラブの皆さんと一緒に)

地域交流活動推進事業実施報告書
【お餅つき交流会】

日 時	令和6年12月14日（土曜日）10時～13時00分
場 所	こころの里 サロン・調理場 正面玄関 他
参加人数	利用者：17名 ボランティア：13名 福祉政策課：3名 職員：6名 ／合計39名
内 容	《 目 的 》 季節の行事である餅つきを通して、精神障害者（利用者）と地域ボランティアがふれあい、協力しあうことにより、お互いの理解を深める。 《 内 容 》 男性利用者・男性ボランティアを中心に協力して、6臼（鏡餅・持ち帰り用丸餅・お手入れ用丸餅）の餅をつき、女性利用者・女性ボランティアは建物共用の玄関にてお餅作りと昼食の準備を行う。参加者全員で、ついたお餅と豚汁を昼食としていただきながら交流を図る。 利用者より300円の参加費を徴収し、年始用のお餅を持ち帰っていた。 《 反省及び課題など 》 ・感染症拡大防止のため、参加者全員に手洗いと消毒、手袋・マスクの着用を徹底。餅に直接触れる人はキャップも着用。まだ様々な制約が残る中ではあるが、参加された方々もそれぞれ楽しまれている様子であった。 ・気温が低いためかもち米が蒸し上がるのに時間がかかったため、例年よりも食べ始めるのが少し遅くなった。それでも蒸しあがった後は滞りなくつき終えることができた。 ・年々餅のつき手が不足してきており男性陣の負担が増えている。日頃支援して下さる個人登録ボランティアの方に加え、他の行事で繋がりが出来ている社協の登録ボランティアの活用も検討。 ・来年度からは、衛生上の観点からも、餅の持ち帰りは行わず、参加者には抽選で日用品・菓子などを持ち帰っていただくこととする予定。

地域交流活動事業実施報告
【お餅つき交流会】



もちつき準備



開会式



餅つき



お手入れ餅



餅作り



食事風景

地域交流活動推進事業実施報告書

【 玉野こころの講演会 】

開 催 日 時	令和7年2月15日（土） 11時30分 ～ 15時30分 （こころの講演会 13時00分～14時45分）
開 催 場 所	こころの講演会 玉野市立中央公民館・多目的室 こころの健康展 ショッピングモールメルカ2階・催事スペース
参 加 人 数	利用者、一般、スタッフ／合計：84名
内 容	《 目 的 》 広く一般市民を対象とし、精神保健福祉について少しでも多くの方々の理解を得る機会となるよう、講演会を開催し啓発活動を行う。関係機関と協働し、「玉野こころの講演会実行委員会」として活動を展開することで、精神保健医療福祉に携わる関係者のネットワークを築いていく。また、精神医療・保健・福祉の社会資源を広く地域住民にPRする機会としても活用していく。 《 内 容 》 会場を中央公民館に変更して3度目となる「第23回玉野こころの講演会」は、近年報道でも話題になっている依存症を取り上げた。「依存症を語る～リカバリーへの道～」というテーマで、岡山県精神科医療センター依存症治療研究チーム担当の精神保健福祉士 江村直樹氏を講師に迎えた。はじめに依存症の脳のメカニズムなどについての話があり、回復には周りの理解も大切だということをお話しいただいた。その後、依存症回復当事者3名の方の体験発表と講師との対談をしていただいた。最後の質疑応答では多くの質問があった。講師、回復当事者、来場者が双方向に語り合い、依存症への理解を深めることができた。 「こころの健康展」は、それぞれの活動を市民に知っていただくことを目的として、当事者団体、市内の精神科病院、就労系事業所のほか、行政の各窓口が展示を行い、公民館（図書館）向かい側の催事スペースで開催した。講演会の来場者が講演前に立ち寄ったり、一般の買い物客や図書館の利用者も通りがかりに足を止めて展示を見ていただけた。 《 反省及び課題など 》 回復当事者の方の体験談は何よりも強いメッセージとなり、心に響いた。江村氏が当事者の話や来場者の質問を丁寧に受け止めてくださり、皆さん話しやすそうであった。対談形式として良い場が形成されていた。 依存症は種類が多く、若年層のネットやゲーム、市販薬などへの依存も問題になっており、アンケートでも「(今後も) 取り上げて欲しい」という意見がみられた。今後その要望にどう応え、展開していくかが課題。当日の入場者が限られたこともあり、講演の録画を3月8日（土）より配信している。

地域交流活動推進事業実施報告書

【玉野こころの講演会】

【こころの講演会】

講演



体験談



【こころの健康展】



【書式例 5-4】

令和 6 年度 指定管理者自己点検結果

点 検 日	令和 7 年 5 月 1 6 日 (7 回目)
施 設 名	地域活動支援センター こころの里
所 在 地	玉野市宇野一丁目 8 - 8
指 定 管 理 者	名 称 特定非営利活動法人 円い空 代表者 理事長 青井 一展 住 所 玉野市宇野一丁目 8 - 8
指 定 期 間	令和 6 年 4 月 1 日 ~ 令和 1 1 年 3 月 3 1 日 (5 年間)
担 当	地域活動支援センター こころの里 電 話 0 8 6 3 - 3 3 - 5 1 5 1 E-mail maruisora.5151@tulip.ocn.ne.jp

評 価 内 容 の 総 括	総 合 評 価
本施設のこれまでの実績を基盤として、利用者の個々のニーズへの対応に努め、きめ細やかな支援を強化していくことを主眼に事業を実施しており、指定管理、運営等の実施状況は良好であり、全体としても良好に指定管理を行っている。 周辺地域での日中活動の場の広がりや、利用者のニーズの多様化もあり、共通の活動に集団で取り組むよりも、個々人が思い思いに過ごす傾向が年々強くなってきている。既存のスタイルの集団活動（行事）への参加者数は減少傾向にあり、活動を終了・休止したものもあるが、新たな交流の場を試行し、ニーズ把握に努めている。 *行数は適宜調節してください。	A

■「総合評価」の評価基準

- S（優 良） 次の 3 項目の評価結果が全て A 以上であり、かつ S が 2 つ以上である。
- A（良 好） 次の 3 項目の評価結果が全て A 以上である。
- B（課題含） 次の 3 項目の評価結果に B が含まれている。
- C（要改善） 次の 3 項目の評価結果に C が含まれている。

① 業 務 の 実 施 状 況	評 価 結 果
【適切な施設管理の履行】 障害者地域活動支援センターとして、利用者・利用者家族・支援ボランティア・地域の関係機関の意見を踏まえながら、精神障害のある利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう必要な支援を継続している。 【法令等の遵守】 障害者総合支援法や岡山県が定める条例、玉野市障害者地域活動支援センター条例等の法令等を遵守し、適切な施設運営が実施できている。 【安全性の確保】 セキュリティ・消防業務等の専門的な業務は、委託業者を用いながら適切に実施されている。 【財産の適切な管理】 維持管理は適切に実施されている。 【利用状況】 今年度は利用契約者の契約状況を確認・見直しを行った結果、契約者は減少。年間平均利用者数は昨年度に比べると減少しているが、ここ6～7年の範囲の中では、引き続き高水準にある。 【コスト削減への方策】 コスト削減については、支出の8割以上が人件費関連の支出で、日頃からコスト削減の努力がされており、これ以上のコスト削減は見込めない。 *行数は適宜調節してください。	A
② サ ー ビ ス 向 上 へ の 取 り 組 み	評 価 結 果
利用者に対し個別の日常の相談援助業務を継続するとともに、施設の認知度を上げるための地域交流等イベント等を継続、サービスの維持向上に取り組んでいる。 *行数は適宜調節してください。	A
③ 団 体 の 経 営 状 態 （ 経 営 の 健 全 性 ）	評 価 結 果
相談支援事業対応による計画相談給付費収益の維持等により、経営努力を行っており、黒字経営を継続している。 *行数は適宜調節してください。	A

■「評価結果」の評価基準

- S（優 良） 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である。
- A（良 好） 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である。
- B（課題含） 協定書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- C（要改善） 協定書等の基準が遵守されておらず、改善が必要な内容である。